

第2章
3 施策領域

持続可能なまちづくり

あるべき姿(概ね30年後)

- イノベーションを創出する基盤となる都市と、適度な開放空間があり、心身を癒してくれる自然が近接した本県の強みを生かして、多様な価値観やニーズを持つ様々な世代の人々が、都市と自然を行き来し、大都市圏では得られないゆとりと安心を実感し、それぞれの仕事と暮らしを楽しむライフスタイルを実現させています。
- 県全体の発展を牽引する広島市や福山市を中心に、沿岸部や山間部の拠点都市が交通や情報ネットワークで結ばれ、相互に連携しながら発展しています。また、県民の日常に不可欠なサービス機能が身近に充足するとともに、デジタル技術やデータなどを活用した、安心して快適に暮らすことができる持続可能なまちづくりが実現しています。

目指す姿(10年後)

- 地域特性や規模に応じた拠点ごとに必要な都市機能の集約や災害リスクの低いエリアへの居住の誘導が進むとともに、拠点間が最適な公共交通ネットワーク等で結ばれた、県民の安全・安心で豊かな生活を支える「持続可能な集約型都市構造」の形成が進んでいます。
- 都市機能や居住が集約されたエリアでは、効果的かつ集中的にデジタル技術やデータなどを活用して、質の高いサービスを享受できるとともに、イノベーションを創出する交流の場と心身を豊かにする自然が近接している広島の強みやそれぞれのエリアの特色を生かした、ゆとりと魅力あるまちづくりや居住環境の創出が進んでいます。
- 広島市都心部においては、利便性の高い公共交通ネットワークの構築や国内外からの来訪者等が気軽に憩えるデザイン性に優れた公共空間の整備等により、人が中心となる都心空間と回遊ネットワークが形成されています。また、大規模オフィスやコンベンション施設、ラグジュアリーホテル等の国際水準の都市機能の強化やイノベーションを生み出す多彩な人材の育成と集積が進んでいます。
- 備後圏域の玄関口である福山駅周辺においては、都市型産業の集積や遊休不動産を活用したビジネスモデルの構築などにより、ビジネスの拠点性が強化され人材が集積されるとともに、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出に向けて、人の集まる拠点の整備や道路・広場等の整備などが進んでいます。

指標

	現状値	10年後の目標値(R12)		現状値	10年後の目標値(R12)
居住誘導区域内人口密度	60.3人/ha (R2)	▶ 60人/ha以上	防災上危険が懸念される地域の居住人口	120千人 (R2)	▶ 100千人以下
日常生活サービスの徒歩圏充足率	52.7% (R2)	▶ 55%以上	自然と都市の魅力享受し、質の高い暮らしが感じられる県民の割合	62.6% (R1)	▶ 70%以上
公共交通の機関分担率	18.7% (R2)	▶ 20%以上			

用語解説 コンベンション施設…会議や見本市などの大規模な催しを行うことのできるホールや展示場などの施設。
居住誘導区域内人口密度…県内で立地適正化計画を策定した市町(R2末:8市)が設定した居住誘導区域内の人口密度。現状値は平成27年国勢調査データを基に推計。
日常生活サービスの徒歩圏充足率…県内の生活サービス施設(商業施設・医療施設・福祉施設)の徒歩圏(半径800m)と公共交通機関の徒歩圏(鉄道駅半径800m又はバス停300m)が重なるエリア内人口の県内総人口に対する割合。現状値は平成27年国勢調査データを基に推計。
防災上危険が懸念される地域の居住人口…県内の土砂災害特別警戒区域内の居住人口。現状値は平成27年国勢調査データを基に推計。

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 急激な人口減少・超高齢社会を迎え、都市の中心部では、空き地や空き家がランダムに発生する都市のスポンジ化が進んでおり、郊外では拡散した低密度な市街地が形成されるなど、行政及び生活サービス水準の低下や公共交通ネットワークの縮小などが懸念されます。
- 拡散した市街地の一部は、土砂災害警戒区域等の災害リスクの高い区域に拡がっており、頻発する大規模災害に対して脆弱な都市構造となっています。
- 県民をはじめ、国内外の多様な価値観やニーズを持つ様々な世代の人々が「住みたい」「働きたい」「訪れたい」と思える広島ならではのまちづくりや居住環境を実現する必要がありますが、地域特性や既存の地域資源が十分に生かされていません。
- 新型コロナを踏まえた人々の新たな価値観やライフスタイルの変化に対応したまちづくりが求められています。
- 広島市都心部については、更新期を迎えた建築物の更新が進んでいないこと、平和記念公園に訪れる国内外の人々の都心への流れ・滞在時間が少ないこと、商業施設の利用が他の地区と比べ相対的に減少していることなどの課題があります。
- 福山駅周辺については、流動客数の減少や空き店舗・空き地の増加などにより、にぎわいが低下しています。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

- 機能集約された都市構造の形成**
地域特性や規模に応じた拠点のレベルごとに必要とされる多様で質の高いサービスを効率的に提供できるコンパクトに機能集約された利便性の高い都市構造の形成に取り組みます。
- ネットワーク及び交通基盤の強化**
集約された拠点内及び拠点間を結ぶ公共交通ネットワークとそれを支える交通基盤の強化に取り組みます。
- 災害に強い都市構造の形成**
災害に強く、安全・安心に暮らせる持続可能な都市構造の形成に取り組みます。
- 地域と連携し、地域の特性を生かしたまちづくりの推進**
多様な主体と連携し、多世代で住み継ぐことができるゆとりと魅力ある居住環境や「まちなみ」の創出に向けたモデルづくり、魅力ある建築物の創造、空き地・空き家の活用・解消など、各市町の特性や地域資源の価値に応じた施策を推進します。
- データと新技術を活用したまちづくり(スマートシティ化)の推進**
県民生活の利便性・快適性の向上に向け、各地域の特性に応じた地域課題を解決するため、関係市町とまちづくりのビジョンを共有し、「交通」や「安全・安心」などの分野におけるデータと新技術を活用したまちづくり(スマートシティ化)を推進します。
- 新しい生活様式に対応したまちづくりの推進**
新たな価値観やライフスタイルに対応できるまちづくりに取り組むとともに、歩行空間の拡大や公園・緑地の充実などのゆとりある空間をまちなかに形成する取組を推進します。
- 人を惹きつける魅力ある都心空間の創出**
広島市都心部及び福山駅周辺において、ハード・ソフト両面にわたり、地域の良好な環境形成や地域全体の価値を維持・向上させるための活動などを通じて、人を惹きつける魅力ある都心空間の創出に取り組みます。